

コンプライアンス方針

基本理念

本多通信工業株式会社およびそのグループ会社は、特徴と魅力のある Segments No.1 プロバイダとして事業を持続的に発展させる前提として、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つと位置付け、企業としての社会的責任を果たし持続性ある発展に努める。

基本方針

(法令等の順守)

1. 事業活動を展開するにあたり、あらゆる場面で法令と社内規則、企業倫理の順守を実践し、社会から信頼される存在であるよう努める。

(安全性の確保および個人情報・顧客情報の保護)

2. 独創的な発想で社会に有用な製品・サービスを、安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、顧客の信頼と満足を獲得する。

(企業情報の開示)

3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。

(地域社会への貢献)

4. 社会の公器として、地域社会に貢献し、良き企業市民として社会的責任を果たす。

(人権の尊重)

5. あらゆる企業活動において人権を尊重するとともに、安全で働きやすい職場環境を確保し、従業員のゆとりと豊かさを実現する。

(反社会勢力との対決)

6. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決する。

(国際ルールへの順守)

7. 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の順守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する事業活動を行う。

(経営層の姿勢および主管部門)

8. 経営層は、本方針の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、各部門に徹底するとともに、各グループ会社や取引先に周知する。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図る。

9. 本方針に反するような事態が発生したときには、経営層自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。

10. 本コンプライアンス方針の主管部門は経営企画グループとする。



2013年4月1日

本多通信工業株式会社
代表取締役社長(グループCEO)
佐谷 紳一郎